

事案名	浜名湖周辺（細江）の事案（静岡県 22 - 1 - 3）
フォローアップ調査資料	・『中日新聞』平成15年7月15日〔5〕 ・証言〔6〕 ・『静岡新聞』昭和22年7月17日〔8〕 ・『朝日新聞』昭和47年5月30日〔9〕 ・証言（元消防団長の証言）〔11〕 ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査結果について（報告）」平成15年9月26日〔18〕
追加資料	・『平成16年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔A1〕 ・「国内における毒ガス弾等に関する総合調査検討会（第8回）」資料8〔A2〕
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	昭和22年、浜名湖に浮いていた缶を開けた兄弟2人が死亡し、引き揚げられた毒ガスが廃棄された。 ○発見・被災・掃海処理等情報 ・付近の住民の証言によれば、「昭和20年8月15日に、自宅北側の山（細江町）で4～5人が掘った穴にドラム缶をいくつか埋めている光景を目撃した。終戦時に、浜名湖の都田川河口付近に空のドラム缶が多数浮いているのを記憶している。ドラム缶の処分に困った陸軍が浜名湖に捨て、中身がある缶については山に埋めたのではないかと記載されている〔5〕。しかし、静岡県の聞き取り調査では「直接、毒ガスのドラム缶を埋設した事実は知らないが、当時その周辺の者からそういう話を聞いているだけで、埋設にかかわっていないし、その光景も見えていない」と、報道とは異なる証言が記載されている〔6〕。 ・昭和22年7月15日に、浜名湖に浮いていた毒ガス缶1個を漁師2名が船上で開け、イペリットにより数日後に死亡した〔8〕。同じ頃、付近の農民も浮いていた容器に触れて両手に水疱ができたと記載されている〔9〕。 ・元消防団長の証言によれば、昭和22年7月16日に、浜名湖に浮いていた缶を開けた兄弟2人が7月22日に死亡し、引き揚げられた毒ガス缶は当時の自治体警察の要請により、細江町気賀山中に横向きに埋設したと記載されている。なお、元消防団員の証言によれば、GHQに埋設場所を教えたとし、後にGHQが毒ガス缶を掘り起こし処分したという話を聞いたと記載されている〔11〕。

	○現在の状況 ・静岡県が行った水質調査によると、周辺５つの井戸では、ヒ素は、環境基準値（0.01mg/l）以下であった。細江町気賀の山林は未利用である〔１８〕。
新たな情報	○その他情報 ・毒ガス缶を埋設したとされる地点は、送電線鉄塔の北側で、現在は草木の生い茂る林の中である。鉄塔の建設年度が１９２５年（大正１４年）であることを電力会社に確認したとの情報がある〔Ａ１〕。
環境調査の結果	○地下水・大気（表層ガス）・土壌調査 ・平成１６年度に、毒ガス缶の埋設情報に係る場所の周辺において５地点の地下水調査を実施した結果、毒ガス成分は検出されなかった〔Ａ１〕。 ・平成１７年度に、毒ガス缶の埋設情報に係る場所において１地点の大気調査及び１地点（１検体）の土壌調査を実施した結果、毒ガス成分は検出されなかった（資料３－１の「別表Ｂ／Ｃ事案及び新規事案に係る環境調査の結果一覧表」参照）。 ○物理探査 ・平成１７年度に、毒ガス缶の埋設情報に係る場所において表層から地中レーダー探査・磁気探査・電磁探査等を実施したところ、証言情報に合致する検知点は確認されなかった（資料３－１参照）。